

国際派必携の資格に
チャレンジ!

NCB英会話教習所【編】

李 洙任【著】

NCB UNATE ANALYSIS TEAM【改訂】



国連英検

A・B級必修単語

The Purposes of the United Nations are:

1. To maintain international peace and security, and to that end: to take effective

1000

collective measures for the prevention and removal of threats to the peace, and for the suppression of acts of aggression or other

◆国連英検シリーズ◆

CDブック

国連英検B級突破〈改訂版〉

CDブック

国連英検C級突破〈改訂版〉

CDブック

国連英検D級突破 付：C級対策講座

CDブック

国連英検A・B級必修単語1000

CDブック

国連英検A・B級必修単語1000

発行——2001年7月15日 第1刷

編者——NCB英会話教室

著者——李 洙任 (リ スーイム)

改訂——NCB UNATE ANALYSIS TEAM

発行者——前田宪治

発行所——株式会社三修社

〒110-0004 東京都台東区下谷1-5-34

TEL 03-3842-1711

FAX 03-3845-3965

振替 00190-9-72758

編集担当 小島和子

印刷所——三英グラフィック・アーツ株式会社

© 2001 Printed in Japan

ISBN4-384-01832-0 C2082

㊦ 〈日本複写センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写センター(Tel.03-3401-2382)にご連絡ください。

NCB英会話教習所【編】

李 洙任【著】

NCB UNATE ANALYSIS TEAM【改訂】

国連英検

A・B級必修単語

1000

The Purposes of the United Nations are:

1 To maintain international peace and security, and to that end: to take effective

collective measures for the prevention and removal of threats to the peace, and for the suppression of acts of aggression or other

本書の使い方

国連英語検定試験の出題傾向をみると、問題で使用する話題は政治、経済、社会、科学から、健康、環境と非常に広範囲にわたり、日常会話で使われる基礎単語の習得だけでは準備は十分とはいえません。受験のための必須語彙を2種類に分けると、レベルに合った基礎用語を含む一般語と、新聞、雑誌等で使用される専門用語や時事英語に分かれます。未知の語が出題された場合、一般用語であれば、読解によって前後の文章から意味を類推するという手段をとるのが有効ですが、専門用語、時事英語の場合は背景知識が大きなヒントとなります。これまで一般用語を中心に語彙を増やす努力をした人が多いと思いますが、専門用語、時事英語となると慣れていないせいか何か難しいイメージをもちがちです。しかし普段から新聞などで、背景知識を身につけておくと、背景知識からその単語の意味が類推できるでしょう。単語だけを暗記していくような非常に無味乾燥の作業は、国連英検受験のために有効とはいえません。ぜひとも本書を使って学習すると同時に、積極的に背景知識の収集に努めてください。

それにはまず日本の新聞を読み、そしてウィークリーの英字新聞や雑誌に目を通し、重要語彙の確認を行うのが効率的な学習方法です。背景知識の収集では特に国連の活動に着目し、例えば世界で起こっている民族紛争の動きと国連の活動との関連をチェックするなど、ポイントを絞るとよいでしょう。その他の分野ではこの書で取り上げられている分野、平和、戦争、政治、環境、健康、人権、社会、経済の話題に目を向け、世相、時代を鮮明に映し出す語や表現は必ず使えるようにしておきましょう。この本書の対象レベルはA、B級です。特にB級は国連英検対策テキスト『国連英検B級突破』（三修社刊）とともに使われると有効です。またNCB英会話教習所では国連英検準備講座の一つとして国連英検対策クラスも開講していますので、興味がおありの方はお問い合わせください。

本書の構成と使い方は次の通りです。

分野別単語と例文

国連英検での出題頻度の高い語彙を分野別に取り上げ、受験に必要な単

語 1000 語と関連語、また単語の運用力がつけられるようにそれぞれに例文を付してあります。例文は主に TIME 誌からの抜粋文の他に、実際に試験で出題された文章と受験指定テキストである *Today's Guide to the United Nations* からの文章で構成されています。

背景知識

各分野でこれだけは知っておきたい背景知識を紹介しています。このメモをもとに、さらに自分で集英社の『imidas』や自由国民社の『現代用語の基礎知識』などで情報収集に努めましょう。そのような知識が基礎となり、新聞を読むとき国際舞台で起こっている諸事実が身近に感じられたら、

その感覚が真の国際人への第一歩と言えます。

練習問題

- ① 各分野から 20 個の単語を選定し、それに合う定義を選ぶ練習問題です。単語の確認に有効です。簡単に解くことができなければ、もう一度その章の単語の確認作業に入ってください。
- ② 文章問題で、単語の使い方の理解を確認する練習問題です。

最後に企画から出版まで予定以上に時間がかかり、又企画内容の幾度かの変更にもかかわらず忍耐強く協力して下さったプロジェクト・メンバーである野田浩司、Martin McKeown、Kaye Patherick、谷口弘美、神下周太郎、藤本和敏各氏をはじめ、その他教務課のスタッフに、心からお礼を申し上げ、そして編集の労をとっていただいた澤井啓充、小島和子両氏（三修社）に感謝の意を表したいと思います。

李 洙任

CONTENTS

国連英検とは ————— 7

1. Peace & Security ————— 23

2. War & Military Affairs ————— 40

3. Politics & International Relations ————— 58

4. Environment & Energy ————— 84

5. Health & Medicine ————— 97

6. Human Rights & Racial Issues ————— 115

7. Society & Culture ————— 125

8. Economy & Business ————— 140

解答 ————— 164

国連機構図 ————— 166

Index ————— 170

トラック対応表

Track	ページ
2 Peace & Security	23
3 War & Military Affairs	40
4 Politics & International Relations	58
5 Environment & Energy	84
6 Health & Medicine	97
7 Human Rights & Racial Issues	115
8 Society & Culture	125
9 Economy & Business	140

国連英検とは

国連英検の概要

国連英検を目指す人が増えてきました。実用英検に比べると国連英検は国際的な視野の広がりを感じさせる内容になっており、国際化が進む現代のニーズにマッチしています。受験を通して国際連合（以下、国連と略記）を改めて見直す機会ができることは、他の英語検定にはない大きな魅力です。また、われわれ日本人が国連職員（国際公務員）になろうとした時に、外務省が語学能力を審査するためのテストとして国連英検を用いていることでもそのレベルの高さが実証されており、受験者にとって大いにチャレンジしがいのある試験です。

国連英検は正式名称を「国際連合公用語検定・英語検定試験」といい、（財）日本国際連合協会（以下、国連協会と略記）の主催で1981年に発足しました。第1回試験が行われたのは同年11月22日で、翌年1月第2次試験が実施されました。第1回試験に挑んだのは1,363名、うち359名が合格しました。国際化が進む現在の日本の状況を反映して、このところ知名度が高くなっています。それとともに受験者数も年々伸びており、99年度までの受験者総数は約60万人にのぼっています。

[1] 国連英検の目的

第1回試験の受験案内によると、「国際連合公用語検定の目的」として次のように明記されています。

「国連公用語は、いわば世界各国間のコミュニケーションを円滑にする役割を果たすための言語です。航空機等の交通手段や通信技術の飛躍的な進歩に伴って、社会的・経済的関係が一層緊密になった現在、公用語の普及は世界的急務と言えます。

国連協会では、公用語の普及・向上をはかるために検定制度を設け、国際的な友好と協力の担い手として真の国際人を世界に送り出すことを目的としています」

また、2000 年度受験案内にも「この試験は、外国語を駆使して国際人として活躍できる能力と常識などをどの程度体得しているかをテストすること」が目的であるとしています。このことから、国連英検が国連公用語の一つである英語を自由自在に使いこなし、同時に良識ある国際人として世界の舞台で活躍できる人材の育成を主目的としていることが分かります。

〔2〕 国連公用語

国連に加盟している国は 189 カ国（2000 年 9 月現在）です。これらの国々はそれぞれが独自の歴史・文化・言語を持っており、いまのところ、単一の「世界共通語」は存在しません。しかし、国連総会や国連の各機関での討議や記録には、できるだけ多くの国の人が理解できる言語を使用すべきでしょう。このような考えから、国連は設立時に、国連憲章第 111 条で中国語、フランス語、ロシア語、英語そしてスペイン語で書かれた憲章本文を等しく正文とすることを決めました。以来、国連で使用される言語は原則としてこれら 5 カ国語とされるようになり、その後アラビア語が加えられ、国連総会等での公用語は現在 6 カ国語となっています。そのうち、常用語として国連のすべての機関で共通して使われているのは英語とフランス語です。本来 6 カ国語であるはずの国連公用語検定がまず英語から実施されているのも、このようなことが理由と思われます。

〔3〕 国連英検の意義

受験案内はさらに、「同時に、この試験を通じて国連に対する一般的理解を深めることも重要な目標」と書かれています。これが実は国連英検のもう一つの目的であり、大切な意義なのです。

国連英検を主催する国連協会は、1947 年に外務省外郭団体として設立された財団法人です。協会の主な活動は、民間の立場から国連への協力を推進することで、とくに日本の国連加盟（1956 年）には、加盟促進の国民運動を展開して 30 万人の署名を国連に提出するなど、大きな役割を果たしたと言われます。

国連協会のさまざまな活動はすべて国連普及運動の一環として行われて

おり、国連英検の実施もその一つです。すなわち、試験を通じて国連に対する理解を深め、ひいては世界平和に貢献しようということです。そのため試験に国連に関する知識を問う問題を取り入れ、とくにB級以上では *Today's Guide to the United Nations* (国連協会著、講談社発行) を指定テキストとしています。受験者は試験を受けるために必ず指定テキストを読むので、必然的に国連を再認識し、国際問題に注目することになります。このことから、国連英検のもう一つの狙いは見事に成功していると言えるでしょう。

[4] 国連英検の特徴

(1) 国際人としての常識・資質が問われる

1次テスト(筆記テスト)は、長文の内容理解が中心です。まとまった量の英文を読んで設問に答えるという形式が中心となります。ここで問われるのは、内容を理解するための背景知識がどれだけあるかということと、論理的思考が英語でどれだけできるかということです。問題本文の意味が把握できているか、文章の展開を筋道立ててつかめているかどうかが問われます。話題は、政治、経済、芸術、文化、科学、歴史、地理など、非常に広範囲で予想しにくいようです。これは、国連の機関が地球上のほとんどすべてのことがらを扱っているためです。したがって、直前の付け焼き刃的な詰め込み式試験勉強は全く役に立ちません。日ごろからあらゆるものに興味を持ち、英文メディア(新聞、雑誌、インターネットなど)に多く触れて知識を広げる努力を怠らないようにしたいものです。

英語そのものの意味が取れても解答できないような設問もあります。その代表例は毎回決まって出題される国連に関する問題です。

(例) The principal U.N. offices located in New York include

- A. the International Court of Justice.
- B. United Nations University.
- C. the General Assembly.
- D. U.N. Peacekeeping Forces.

(答: C)

この種の問題は与えられた英文だけから正解を導いたり、消去法で正解

を導き出すことはできません。受験者は「国連」英検であることを思い知らされるのです。指定テキスト *Today's Guide to the United Nations* の指定範囲を理解しておくことは、最も重要かつ確実な受験準備です。また次のような問題もあります。

(例) Constantinople

- A. was the largest city of Palestine.
- B. is still the capital of its country under another name.
- C. was situated on the east Mediterranean coast.
- D. is known as Istanbul today.

(答：D)

これは英語の問題というより、常識問題でしょう。このように、問題本文の英文が扱っている話題を理解できるだけの常識や知識の有無が問われるということは、いわば受験者は「資格審査」をされるようなものです。2次テスト（面接テスト）でも同様に **General Knowledge** が試されるので、受験者としては、その級で期待されている英語力と背景知識をあらかじめ考慮したうえで、受験級を決めるべきでしょう。

(例) Which of the following areas experienced major armed conflict in 1993?

- A. Kuwait
- B. Israel
- C. Bosnia
- D. South Africa

(答：C)

(2) 速読・速解が要求される

2000年度第1回B級試験を例にとると、客観問題（マークシート式）は、350語程度の長文が4題とこれに関する設問が40問、文法の間違い探しの設問が10問、長文の対話文問題が10問、そして指定テキストからの10問と常識問題10問の、合計80問が出題されました。また2000年度第1回のA級試験では、長文・短文の出題バランスはB級と同じでしたが、長文の平均語はB級の倍以上になって、合計80問出題されました。120分間の試験時間は、このあとの主観問題（自由作文）に少なくとも20分

は費やすことを考えるとあまりにも短いので、一字一句にとらわれず、すばやく要旨をつかむことが大切です。そのためにはとにかく読む練習をするしかありません。そして、問題量に圧倒されない心構えと、どんな話題にもついていけるだけの広い守備範囲を持つことが必要です。

(3) 英語による自己表現力がチェックされる

1次試験の問題用紙の最後にあるのが自由作文。文章による自己表現力テストです。配点は20%で、これが白紙答案では、もちろん1次通過は非常に困難です（特A級は作文が重視されるため、白紙答案は不合格とされる）。この作文は、①テーマが与えられ、それに対する表現力が問われる、②語数制限がある、の2点でかなりの難問です。つまり、質と量とが同時に問われるわけで、その両面から準備を整えていかなければなりません。テーマは時事性の高いものが多いので、ある程度予測はできます。新聞の社説などを利用した準備が効果的でしょう。ただしB級では、ときには日常的なテーマも出題されています。

2次試験は外国人インタビューと1対1でテストが行われ、この結果で合否が決まります。ここで問われるのは、口頭での自己表現力です。コミュニケーション能力、説得力、内容、知識などが「国際人」として通用するかどうかを試されます。表現力というと、自分が話すことだけに懸命になりがちですが、コミュニケーションには双方の立場があることを忘れないようにしましょう。国連英検のインタビューは口頭試問のような一方的なものでなく、会話を進めながら発展させていく形式なので、できれば会話を楽しむくらいの気持ちで試験に臨むのがいいでしょう。

最終的な合否判定に、1次試験の成績は考慮されることがないので、2次の口頭テストは合否決定を直接左右することになります。最近のテストの結果を見ると、2次試験の合格率は、B級約70%（約15%）、A級約40%（約8%）でした（カッコ内は最終合格率）。1次試験を突破してきた受験者の英語力水準を考えると、2次試験はこの数字以上に難関であることが分かります。

(4) 国連職員への選考試験に直結

将来国連で働くことを夢見る人は多くても、国連職員（国際公務員）に採用されるまでの手続きはあまり知られていません。国連の日本人職員はまだまだ少なく、国別割り当てによる適正人数の半数以下であるといわれ、このことは長年の課題とされてきました。その原因はさまざまですが、空席ポストを募集する雇用方式と語学力の不足が大きいと思われます。そこで外務省はアソシエート・エキスパートなどの制度を設け、志望者に国費で一定期間国連の各機関へ派遣するインターンシップの機会を与えています。

この制度の志願者が受ける選考試験（書類審査、語学審査、人物審査）では、語学審査に国連英検 A 級試験（1 次・2 次）が用いられています。国連英検の試験問題は、国連が英語ネイティブ以外の職員を採用する際に使われる試験問題も参考にして作成されており、その点からも信頼性が高いのです。

国連で働くことを目標にする人にとっては、国連英検 A 級をクリアすれば夢が現実のものになりうるわけで、国連英検が目に見える具体的なターゲットとなるのです。

〔5〕 試験の概要

国連英検は特 A 級から E 級までの 6 段階にランク分けされています。受験者は評価基準と査定内容にしたがって自分の実力に応じた級を選ぶわけですが、おおよその見当をつけたら、過去の出題レベルや傾向をひと通り調べておくのがいいでしょう。試験は年 2 回行われ、午前（A, C, E 級）と午後（特 A, B, D 級）に実施されますが、隣接した級を同日の午前・午後に受験する（併願）こともできます。B 級以上では 1 次試験を通過すると 2 次試験を受験することができ、これにパスして初めて合格となります。なお、2 次試験に不合格または欠席した場合は、条件により申請して次の 1 次試験を免除してもらうこともできます。

〔6〕 出題の形式

B 級以上は、マークシート方式による四者択一の設問が 80 問と自由作

文が1題出題されます。時間は120分間。マークシートは鉛筆で答を塗りつぶします。作文は作文用の解答用紙に、採点者が読みやすいように書かなければなりません。作文は問題用紙の最後にあるので、試験が開始された時、テーマをチェックしておき、自分なりに作文に要する時間の見当をつけてからマークシートに取りかかるようにしましょう。また、作文から手がけていく方法もあるでしょう。いずれにしてもマークシートの解答欄には必ず全問記入するようにしたいものです。

問題指示文はすべて英文です。ここでつまづかないように、指示文の形式に慣れておくようにしましょう。以下例を挙げます。

Choose the most appropriate from among the four alternatives in accordance with the above passage : (長文読解問題の指示文)

Choose the most appropriate of the four alternatives according to your knowledge and information from *Today's Guide to the United Nations* : (指定テキストからの出題。問題本文を読まなくても答えられる)

Choose from among the four alternatives the one that does *not* agree with English usage : (間違い探し)

Fill in the blanks with the most appropriate of the four alternatives : (空欄補充問題)

[7] 合格基準

1次・2次ともに公表されていません。1次は55～60%程度と思われます。これから推測されることは、マークシート80問中44問以上に正答し、かつ作文で11点以上得点できることが2次への最低条件となるということです。作文で高得点を取ることがかなり難しいことを考えると、客観問題で50問近い正答を目指すべきでしょう。

2次テストの採点は10段階で、6以上が合格圏内と思われます。面接により、理解力、流暢さ、構文、語彙、伝達力、国連や時事問題に関する知識の6分野でそれぞれ3段階評価されたものを総合して、10段階に換算されるのです。したがって、その中で極端に弱い部分がないよう対策を練らなければなりません。

〔8〕 B級試験の概要

(1) 評価基準

英字新聞の概要が理解できる読解力、手紙や短いスピーチの原稿が書ける表現力、外国での日常生活に必要な会話を備えていることが要求されます。対象となるレベルは、大学前期終了・短大卒業・専門学校卒業程度です。指定テキスト *Today's Guide to the United Nations* の出題範囲は Chapter 1, 3, 4 です。

評価基準と査定内容

特 A 級	●評価基準 文法力、単語量を評価対象とするのではなく、英語の運用力と国際常識を基に、国際社会での適応能力を判定する。国際会議に参加して、意思を伝え、自由に討論できる能力があること。知識、態度、判断力等、真に国際人と呼ぶにふさわしい人。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面接テスト（総合的英語力、適応力）。外国人とのフリートーキング（約15分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。特A級のみ（A級との併願を含む）第2次テストは東京で実施します。
A 級	●評価基準 一般論文の理解及び作成ができ、外国人との討論に参加しうる口頭表現力を備えていること。 一般社会人及び大学生上級程度。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面接テスト（外国人との面接約10分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
B 級	●評価基準 英字新聞の概要を理解でき、外国での日常生活に必要な英語力を備えていること。 大学生、短大卒業、一般社会人に適当。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面接テスト（外国人との面接約7分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
	●評価基準 高校英語の範囲内の英語力を身につけていること。国際的事象に関する簡単な文章を読んで理解できること。

C 級	文法・文型については、高校英語の指導要領の範囲内。高校卒業程度。 高校上級、大学初級、短大生から一般社会人まで幅広い人々に適当。 ●査定内容 筆記テストとテープテスト（面接テストなし）
D 級	●評価基準 主に中学英語の範囲内（語彙はその限りでない）で、簡単な文章の理解と表現ができること。中学卒業程度。 中学上級から高校生向。 ●査定内容 筆記テストとテープテスト（面接テストなし）
E 級	●評価基準 中学2年程度の基本的な語彙と文法や文型を中心に出题。簡単な基本英文や会話英語、短くてやさしい物語が理解できること。中学中・上級程度。 中学生から高校初級者向。 ●査定内容 筆記テストとテープテスト（面接テストなし）

- 特A級、A級、B級の受験者は、あらかじめ“*Today's Guide to the United Nations*”（国連協会著）を必読のこと。
- 出題範囲 特A級：全ページ、A級：Chapter 1～6、B級：Chapter 1、3、4
- 各級の合格者には、合格証を発行します。

(2) 試験内容

1次試験は指定テキストからの出題（10問）のほか、新聞の論説、随筆、対話、雑誌記事など、多彩なテーマの長文による語彙・文法・読解力をテストする総合問題が大半を占め、最近では社会問題を扱った英文が選ばれています。94年度試験では「台頭しつつある中国とその脅威」「アメリカの大学生の学歴に関する意識調査」「冷戦後の米国の外交」などについての英文が出題されました。

自由作文は決められたテーマで80～100語の小論文を作成します。最近ではテーマに時事的なトピックが選ばれ、考えを簡潔にまとめるのに、ある程度の背景知識が必要でしょう。2000年度第1回目は、“*Working Women*”でした。